

平成31年 3月18日

岩見沢市議会

議長 井 幡 修 一 様

会 派 名 市 民 ク ラ ブ

代表者名 大 坂 龍 起

政 務 活 動 報 告 書

政務活動の使途項目	調査研究費
日 程	平成31年2月13日（水）午後1時30分から午後3時
視察先・視察項目 （研修先・研修項目）	小樽市 ～ 市立病院建設の経緯について
議 員 名	大坂龍起、豊岡義博、峯 泰教、伊澤幸信、井幡修一、太田博之、 篠原藤雄、平野義文、増山宣之
調 査 概 要	詳細は別紙のとおり

2月13日（水）小樽市

- 視察項目：市立病院建設の経緯について
 - ・新病院建設の経緯 ・建設費等（建物・医療器具）・経営状況
 - ・地方公営企業法全部適用による職員の身分と給与体系
 - ・病院ボランティア制度 ・医師確保の方策 ・医療連携とその方策
 - ・市立小樽病院高等看護学院との距離的な不都合はないのか
- 視察受入対応者：小樽市立病院 事務部佐々木次長様
事務部経営企画課鈴木課長様 地域医療連携室柴田主幹様
- 報告者：峯 泰教

1 小樽市の概要

- ・総人口：119,882人 （平成29年10月1日現在）
- ・面積：243.83㎢

小樽市は、北海道西海岸のほぼ中央、後志地方の東側に位置し、札幌市など4市町村に接しています。東西約36キロメートル、南北約20キロメートルで、市街地の一方が日本海に面し、他の三方を山々に囲まれた坂の多いまちです。海岸線は約69キロメートルで、その中央には天然の良港である小樽港があり、西側の勇壮な海岸は「ニセコ積丹小樽海岸国定公園」に指定されています。気候は北海道にあって寒暖の差が小さい海洋性であるため、住みやすく、春は桜と新緑、夏はゴルフやマリンスポーツ、秋は紅葉、冬はスキーと、四季を通じて豊かな自然を満喫できます。

2 調査項目について

- ・平成26年12月1日に旧市立小樽病院（223床）と旧小樽市立脳・循環器こころの医療センター（222床）統合し26診療科（388床）として開院した。市内には154床、240床、258床を有する個人病院が近くにあり人口規模から考えると市内全体の医療環境は充実している。
- ・建設費は医療器具を含め137億5千万と比較的安価であるが、院内の各スペースに余裕が無い場合災害発生時等で一度に多くの患者が来院した場合、その対応は非常に厳しい状況になる事が想像される。また、院内のエレベーターが連動して動いておらず待ち時間が非常に多く非効率であった。
- ・現在、病院ボランティア11名（男性1名、女性10名）が在籍しており、週1日～3日、午前中に入・外来患者への各種手続きや病棟の案内、図書コーナーでの整理などを行っている。活動に要する経費はボランティア保険への加入も含め全て自己負担との事。当市でも参考にすべき事例と思います。
- ・医師確保では主に札幌医科大学や北海道大学へ随時、要請をしている。また、臨床研修医の初期研修を担い2年後に大学などへの後期研修に送り出す事で、その後、正職員

として戻ってくれている例もあるとの事。あらゆる可能性を大切に誠心誠意対応する事が大事と思います。

- ・地域医療との連携では医療機関訪問による「顔の見える関係」を構築し原則、紹介患者は全て受け入れている。更には、「オープン病床」として病床を持たない地域の開業医が、自分が主治医のままで市立病院のベッドや施設を利用できる仕組みを構築し患者さんにとって安心して繋がっている。

- ・ヘリポートの活用では黒松内などからの患者受け入れはあるがドクターヘリの場合は手稲や札幌へ直接向かう例が多いようで、小樽から札幌方面への患者の移送は救急車で高速を利用するケースが多いとの事です。

- ・市立小樽病院高等看護学院との距離的な不都合では学生にとっては不便はないが講師を務める医師や看護師の移動に時間を要するので余裕を持った計画が必要である。

- ・その他、駐車場や病院までの交通に付いてですが、市立病院横に250台収容の駐車場があり民間に管理を業務委託している。職員のマイカー通勤での駐車場への乗り入れは禁止されており、近隣の民間駐車場を各自で借りる事としている。また、JR南小樽駅や市立病院前を通るバスと路線が非常に充実しており通勤や通院に際し公共交通機関を利用する割合が高いようです。慢性的に駐車場不足にある当市にとって参考にすべき点だと思います。

- ・視察全体を通して、市立病院の果たすべき役割はその地域、地域によって全く違う事から基本構想段階で十分な議論と検討が必要と強く思います。医師や看護師の視点、患者さんの視点、経営的な視点で十分な議論をオープンな形で尽くすことが大事だと強く思う視察でした。

